　私が金沢工業大学を希望した理由はプロジェクト活動や専門教育が他の大学より目を見張るものがあったからである。プロジェクト活動が豊富ではなかったら私は別の大学に行っていたと思う。最初は大学に慣れることで精一杯で自ら考えて行動する余裕がなかった。大学を無事に卒業することしか考えていなかった。しかし、私は2年後学期まで大学生活を送ることによって、自分に自信をつけることが出来た。与えられたことだけではなく、さらに自分を高めるためにはどうしたらよいか考えることができるようになった。自分を客観的に見ることもできるようになってきた。金沢工業大学のリーダーシップアワード生制度とは、金沢工業大学の教育目標である「自ら考え行動する技術者」に向けて、「授業等の正課」と「金沢工業大学オナーズプログラム等の課外活動」の両面で優れた成果を修め、リーダーとなる人材の育成を目指す制度である。私はこれまでの大学生活によって成長してきたつもりだが、まだ自分の力に満足していない。リーダーシップアワード生になることによって、さらに自分を高めることが出来る。また、自分を高めるためのモチベーションの維持にもなる。これが、私がリーダーシップアワード生に希望する理由である。私が金沢工業大学のプロジェクト活動を行って成長したこと、これからやっていきたいことを次から説明する。

私は情報系プロジェクトのマイクログリッドプロジェクトに所属している。私がマイクログリッドプロジェクトに入った理由は、マイグログリッドプロジェクトは地域で行われる行事に積極的に参加するプロジェクトだからである。加えて、自分が専攻している分野である情報技術を生かすことが出来るからである。最近では、月見光路、野々市情報交流館カメリアでのクリスマスイベントに参加した。どちらのイベントもオープンソースハードウェアであるマイコンのArduinoを用いたオブジェを展示した。

月見光路では、金沢工業大学環境・建築学部建築デザイン学科の下川雄一研究室とコラボレーションした。オブジェに近づいたり、触れたりするとオブジェの色が変わるセンサーを使ったものを製作した。見るだけでなく、体感するオブジェを使ったため当日の参加者にも楽しんでもらうことが出来た。私はプログラムを書くのではなく、主にArduinoとセンサーの半田付けをしていた。単純作業のため、専門知識などは特に必要がなかった。それでも、夜遅くまで作業することが多く、非常に苦しかった。授業に遅刻することなどはなかったが、授業中に集中力を欠いたりして、寝てしまうことがあった。プロジェクト活動をやっていて授業に支障を出してしまったのである。学生は勉強するのが仕事のため、このようなことが起こっては本末転倒である。これは月見光路での活動の大きな反省点になった。他のプロジェクトとコラボレーションしたのは、月見光路が初めてであった。そのために、反省点も多くあったが、成長した点のほうが多い。私は、月見光路まで自分の専攻している分野以外の人とコミュニケーションを取る自信がなかった。しかし、プロジェクト活動を通して、自分の専門分野以外の人とコミュニケーションを取る自信がついた。また、月見光路当日に、スタッフとして参加者を案内した。そのため、自分と立場が全く違う年齢が離れた人ともコミュニケーションを取ることが出来るようになった。

野々市情報交流館カメリアでのクリスマスイベントでは、建築系プロジェクトのToiroとコラボレーションした。「情報の見える化」を目指して、月見光路と同様に、触れたりするとオブジェの色が変わるセンサーを使ったものを製作した。作品制作では、3つのグループに分かれてアイディアを出し、プレゼンテーション、投票、マスタープラン作成、詳細設計、作品制作とさまざまな過程を経た。このとき、意識した点はいかにセンサーの特質を生かしてオブジェでクリスマスの雰囲気を感じさせることである。グループメンバーで試行錯誤しあい、オブジェの光の色や形を変更していった。最終的には、自分が想像していたものより素晴らしいものを製作することが出来た。人と意見を交流しあい、目標に突き進むのは楽しいことであり、必要不可決なものであると思った。クリスマスイベントの活動は月見光路のときより時間がかかることが多かった。また、私はクリスマスイベントでは、Arduinoのプログラムを書いた。専門知識が必要なため、月見光路のときより負担が大きかった。しかし、授業に支障を出すことはなかった。月見光路のときの反省を生かし、計画的に活動することを覚えたのである。以前の失敗から学び、反映させること忘れなかったのである。このように、プロジェクト活動を通して、私は成長することが出来た。また、自分の専門分野以外の人とも交流することが出来た。マイクログリッドプロジェクトしては、これからは建築学科だけはなく、他の学科のプロジェクトとコラボレーションしていきたい。自分の専門外の知識をつけること大切だからである。自分の専門技術もさらに磨いていきたい。また、文化庁メディア芸術祭で新人賞を狙っていきたい。文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルである。そして、現段階では知名度がないマイクログリッドプロジェクトを知ってもらえるようにしたい。このような活動は私の将来の夢にも生かすことが出来ると思う。私は将来、県庁で情報に携わる地方公務員になりたいと思っている。地方公務員になり、マイクログリッドプロジェクトでしているように、情報技術で町おこしなどをしたい。また、情報技術で生活面をより便利にしたい。私は将来の夢を叶えるための努力を惜しまない。そして、将来の夢を叶える。

プロジェクト活動を通して、様々な経験を積むことが出来た。他学科の人とのコミュニケーションの取り方、専門技術の知識などプロジェクト活動以外では得ることが難しいものばかりである。いままでの大学生活は非常に充実していた。プロジェクト活動では、リーダーの指示に従って行動してきた。リーダーの指示に従った行動で手を抜いたことは一度もない。リーダーから受けた指示以上のことをしようと努力してきた。いままではこれで充分だと思っていた。しかし、社会では自ら新しい挑戦を起こす人が必要とされる。現状の私ではそれに及ばない。そのために、私はリーダーシップアワード生になりたい。リーダーシップアワード生になって、新しい挑戦に向かい努力していく。さらに、マイクログリッドプロジェクトでもリーダーとして行動して、成長したい。そして、金沢工業大学の教育目標である「自ら考え行動する技術者」になる。以上が、私のリーダーシップアワード生としての志望理由と、オナーズプログラムの活動実績と今後の展望である。